

オフィス向けインクジェットプリンター戦略説明会

2017年 2月 2日

セイコーエプソン株式会社

エプソンのインクジェットイノベーション

Epson 25で実現するプリンティング領域の革新

エプソン流の垂直統合型ビジネスモデル

強みを持つ**独創のコアデバイス**に、「垂直統合型ビジネスモデル」でレバレッジをかけ、リソースを効率的に活用しながら、さまざまなお客様に期待を超える価値を提供する



「省・小・精の価値」で、人やモノと情報がつながる新しい時代を創造する

サイバー空間

インクジェット イノベーション
ビジュアル イノベーション
ウェアラブル イノベーション
ロボティクス イノベーション

Epson 25

「省・小・精の価値」

スマート・環境・パフォーマンス

リアル世界

Epson 25 - インクジェットイノベーション

独創の「**マイクロピエゾ技術**」を磨き上げ、より高生産性領域へ飛躍する
また、高い環境性能と、循環型の印刷環境をお客様へ提供する

超高速コピー



オフィス

高速ラインヘッド
スマート化

PaperLab



ドライファイバー
テクノロジー

インクジェットイノベーション

マイクロピエゾ技術

PRECISION CORE



デジタルプレス

高耐久・
高生産性ヘッド
高性能インク
高速搬送



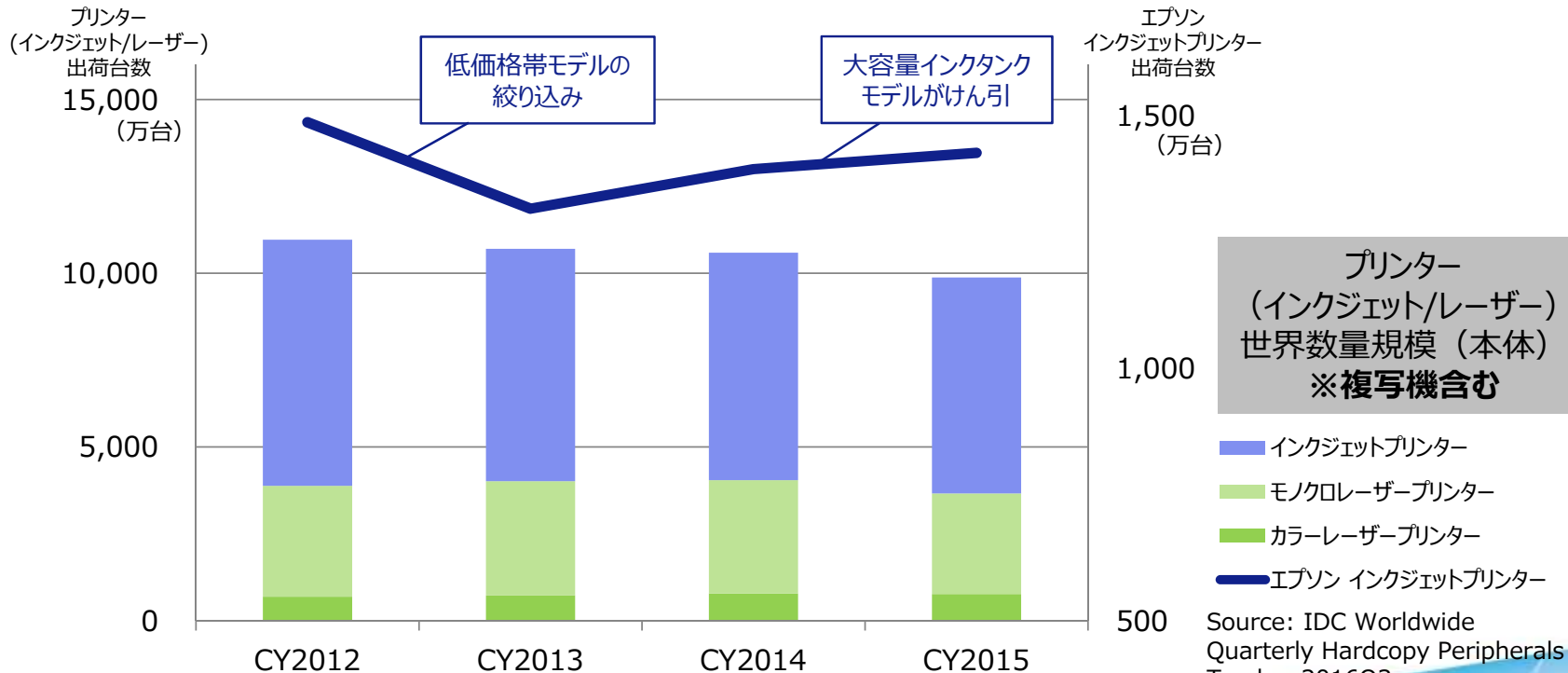
産業

デジタル捺染



プリンター市場の状況

- ◆ エプソンは大容量インクタンクモデルの投入などにより販売数量が拡大
- ◆ プリンター市場全体は停滞



Source: IDC Worldwide Quarterly Hardcopy Peripherals Tracker 2016Q3

お客さまのプリント状況

- ・プリントコストは抑えたい
- ・環境負荷低減のために、紙の利用は控えたい

プリントに関する
コストと機会を抑制している

お客さまのプリントに対するニーズ
タブレットPCが普及するなかでも、
紙は普遍的なコミュニケーションツール
(携帯性、一覧性、目にやさしい、
書き込める、理解しやすい)



キレイに、簡単に、速くプリントしたい

インクジェットイノベーションにより
気がねなくプリントができる環境を実現

- 高速・高画質
- 低TCO
- 省資源・省エネルギー

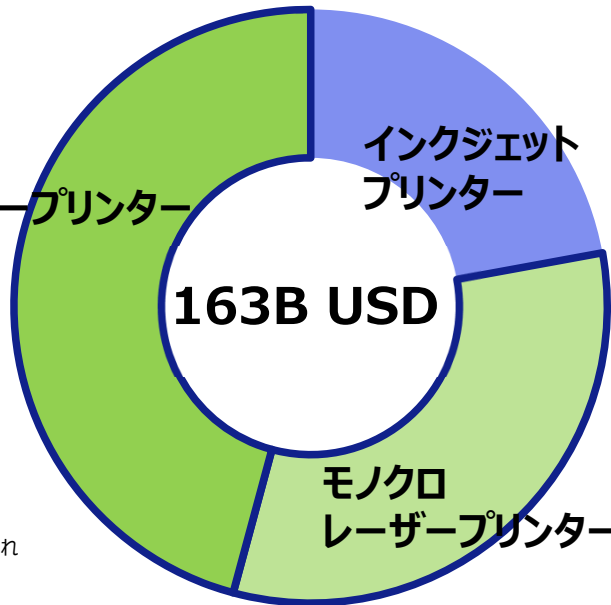


プリンター市場におけるエプソンのポテンシャル

- ◆ プリンター市場はワールドワイドで163B USD（約18兆円）
 - レーザープリンターの市場はインクジェットプリンターの約3.5倍
- ◆ エプソンは独創のインクジェットヘッド（PrecisionCore）の優位性を生かし、レーザー方式からインクジェット方式への置き換えを図っていく



カラー
レーザープリンター



インクジェット
プリンター

モノクロ
レーザープリンター

プリンター
(インクジェット/レーザー)
世界市場金額規模
(本体+消耗品)
※複写機含む

*レーザープリンター：プリンターの印刷方式のひとつである電子写真（レーザー、LEDなど）について、本スライドでは広く一般的に認知されている用語として“レーザー方式”と総称する

エプソンのインクジェット 競争優位の源泉

エプソンのインクジェット：優位性のポイント

- ◆ エプソンのインクジェットはレーザープリンターを置き換えるポテンシャルを保有

優位性のポイント

プリンター
の方式

インクジェット方式



- サーマル方式
- ピエゾ方式

マイクロピエゾ
・PrecisionCore

その他の方式

レーザー方式



インク
ジェット
ヘッド

エプソン独創のインクジェットヘッド PrecisionCore

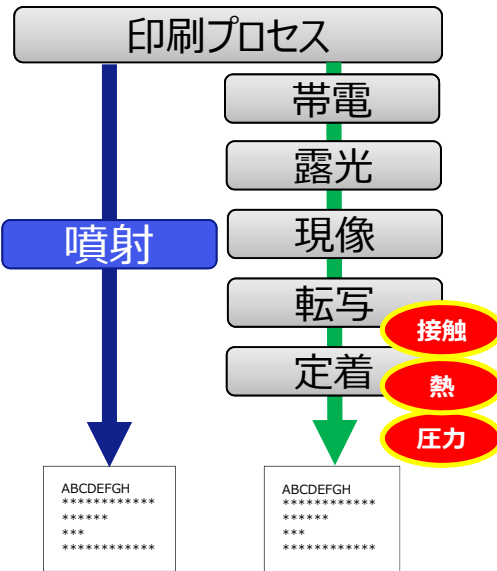
- ◆ 超高精度MEMS製造技術による薄膜プリントヘッド技術
- ◆ 従来のマイクロピエゾ技術の特長を生かしながら、さらに**高速・高画質なプリントが可能**
- ◆ オフィスから商業・産業まで幅広い商品に展開

インクジェットの原理的な優位性 vs レーザープリンター

◆ 非接触で熱を使わない、シンプルな構造

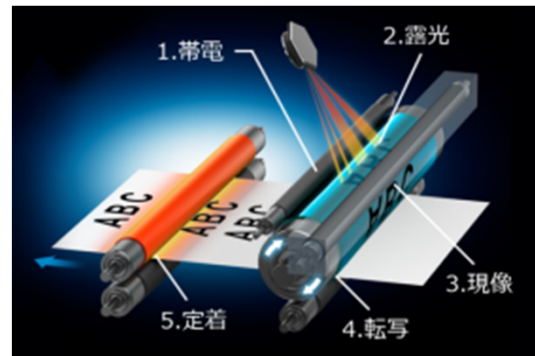
インクジェットプリンター

微細なインク滴を紙に吹き付けるだけの非接触印刷方式



レーザープリンター

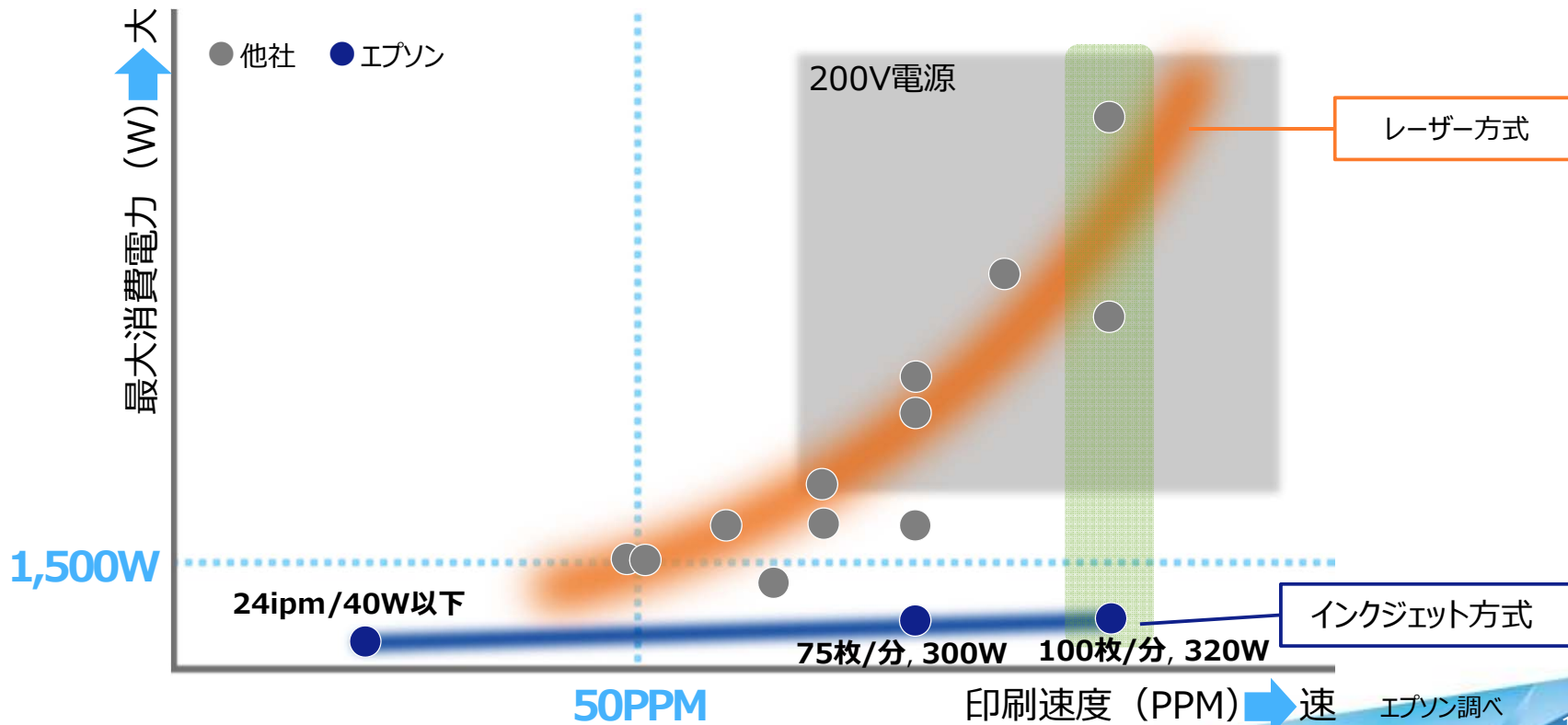
トナーを紙に接触させて転写し、熱と圧力で定着する印刷方式



構造がシンプルなインクジェットプリンター
「低TCO」「低消費電力」「廃棄物が少ない」「交換部品が少ない」「故障しにくい」

インクジェットの原理的な優位性 vs レーザープリンター

◆ 高速化するほど、消費電力に差が出る

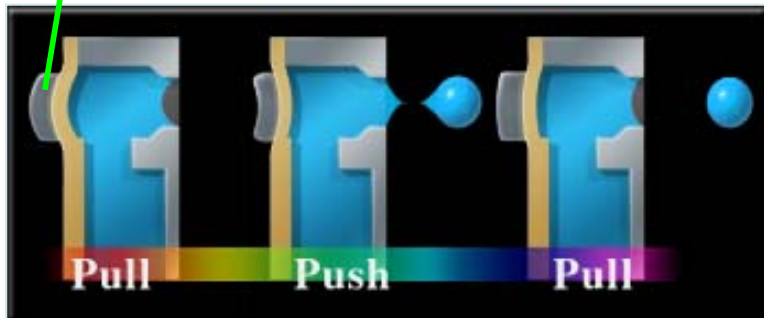


PrecisionCoreの優位性 vs サーマル方式

PrecisionCore (マイクロピエゾ技術)

電圧を加えることで収縮する
ピエゾ素子の機械的な動きによって
インクを噴射する

ピエゾ素子



<特徴>

- ・非加熱のため、ヘッド自体の性能劣化がなく、インク種の制約も少ない
- ・構造複雑で製造の難易度が高い

サーマル方式

加熱により気泡を発生させ
インクを噴射する

ヒーター 気泡



<特徴>

- ・ヒーター劣化やインク種の制約あり
- ・構造が簡単

PrecisionCoreの優位性 vs 他ピエゾ方式

エプソン独自開発の高変位ピエゾ

自社による大量生産

**優れたノズル噴射能力
高いノズル解像度**

品質の安定性とコストダウン効果



東北エプソン PrecisionCoreプリントヘッド生産ライン



小型ながら高速印刷と高画質を両立

高品質・低価格を実現

インクジェットの原理的な優位性

+

PrecisionCoreの優位性

エプソンだからこそ提供できるお客様価値

- 高速・高画質
- 低TCO
- 省資源・省エネルギー
- メンテナンスの手間と時間を削減
- ウォームアップ時間短縮
- 高い用紙対応力

PrecisionCoreの技術を継続的に磨き、
常に高いお客様価値を提供していく

- ✓ さらなる高密度化による画質向上や、シュリンク化によるコスト競争力の向上
- ✓ ラインヘッド化による、高速印刷と高画質の両立

高速プリントを実現した革新的な要素技術

エプソンの高速ラインインクジェット複合機

- ◆ オフィス向けの市場開拓を加速する
高速ラインインクジェット複合機を投入

100枚/分

※A4横片面

標準解像度 600x1,200dpiにて

- ◆ 核となる要素技術を新たに開発
 - 高速印刷を実現するための
PrecisionCoreラインヘッドを新開発
 - 高速化に対応した**新開発速乾性インク**

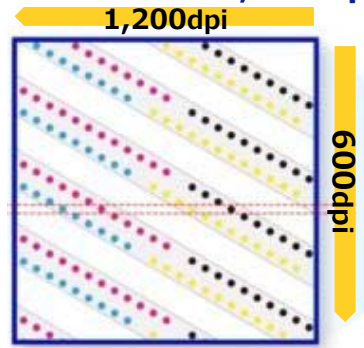


PrecisionCoreラインヘッドを開発

- ◆ 高速印刷を可能にする、A3ノビ用紙幅のPrecisionCoreラインヘッドを開発
- ◆ ノズルを**高密度化**した新開発のPrecisionCoreマイクロTFPプリントチップを斜めに配列することで、**高品質印刷**と**小型化**を両立
- ◆ ビジネス文書に求められる印刷解像度を実現



100枚/分の印刷スピードで
標準解像度600×1,200dpi



43mm

紙搬送方向

他社ラインヘッド製品A 180mm

他社ラインヘッド製品B 360mm

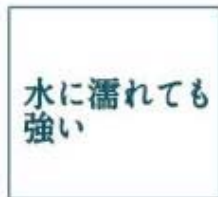
高速・高画質印刷を可能にするインク技術

- ◆ 高速印刷に対応した速乾性インクを新たに開発
- ◆ 新インクと高密度化されたラインヘッドにより、高速でありながらもレーザープリンター並みの文字品質を実現
 - 普通紙でも**鮮明**なカラー印刷
 - インクの紙への浸透が少なく、普通紙でも**カールや裏写りを抑制**
 - レーザープリンター並みの**シャープな文字品質**を実現
 - 優れた**耐水性・耐マーカージェット性**

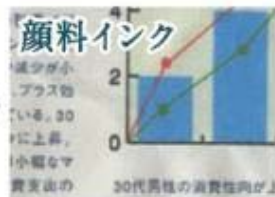
シャープな文字品質

4pt 美しい日本語 1234#\$\$&
 5pt 美しい日本語 1234#\$\$&
 6pt 美しい日本語 1234#\$\$&
 7pt 美しい日本語 1234#\$\$&
 8pt 美しい日本語 1234#\$\$&
 10pt 美しい日本語 1234#\$\$&
 12pt 美しい日本語 1234#\$\$&

主に家庭向け
インクジェットプリンターに採用



オフィス向け
インクジェットプリンターに採用



※イメージ画像

コア技術をビジネスにつなげるエプソンの事業基盤

- ◆ 常にインクジェット技術の先端を行く研究開発体制
 - 継続的な研究開発による競争優位の確立
 - インクジェットに関わる開発機能やオペレーション体制が同一拠点にあり、研究開発、意思決定、課題解決スピードが速く、効率的
 - ✓ プリンター事業やヘッドなどの要素に関わる研究開発機能を強化（広丘事業所内でイノベーションセンターに加え、研究開発機能を備えた新工場を建設）
 - ✓ 研究開発機能、事業HQ機能が同一拠点 *HQ : Headquarters
 - ✓ 中長期的な持続的成長を果たす新製品・要素の開発などに積極的に投下
- ◆ 業界No.1の特許数を誇る豊富な知財力（インクジェットプリンター関連）

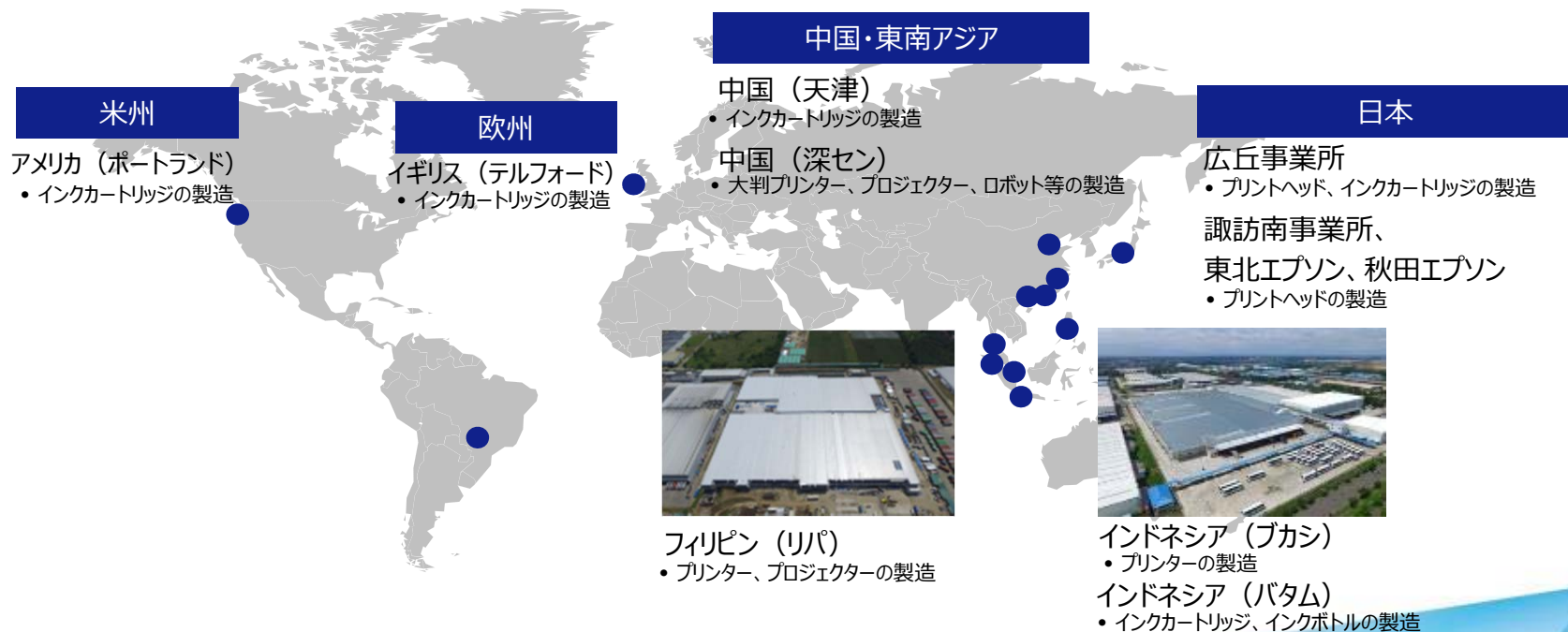
日本・米国・中国におけるインクジェットプリンター関連特許登録件数

	エプソン	A社	B社	C社	D社	E社	F社
日本	5,800	3,101	2,539	1,859	1,767	533	1,131
米国	3,660	2,753	1,994	1,271	885	1,262	332
中国	1,527	975	535	184	285	299	41

* 2006年から2015年までの累計
（商用データベースよりエプソン調べ）
日本、米国、中国いずれも特許登録
件数（公報発行年）

エプソンの製造力の強み

- ◆ バリューチェーン上に自らの生産拠点を所有することで、競争優位を確保
 - 精密加工技術など高い製造技術・ノウハウを蓄積
 - 他事業との連携による製造力強化（ex. ロボット活用による省人化）



エプソンの販売・サポートの強み

- ◆ 世界64カ所に販売・サポート拠点を構築済み
- ◆ レーザープリンター、SIDM、POSプリンター、大判プリンター、プロジェクターの販売を通じて培った幅広いビジネス向けチャネルとの関係を保有
- ◆ 新しいコンセプト（大容量インクタンクモデルなど）を市場に浸透させた販売力

▲ 地域統括販社
★ 販売・サービス拠点



エプソンアメリカ
北米・南米における
地域統括販社



エプソンヨーロッパ
西欧・東欧・
中東・アフリカにおける
地域統括販社

エプソンシンガポール



アジ太平洋地域における
地域統括販社

エプソンチャイナ



中国における
地域統括販社

エプソン販売



今後の展開

今までにない高速・シンプル機構の複合機の投入により、
 オフィス印刷市場でレーザー方式からインクジェット方式への
 テクノロジーシフトを引き起こし、中長期的な利益成長を実現する



高速・高画質

低TCO

省資源・省エネルギー



高速ラインインクジェット複合機とPaperLabの組み合わせにより、
オフィス内で「印刷」と「紙の再生」のサイクルを確立し、
気がねなく快適にプリントができる環境を実現

オフィス製紙機
PaperLab



高速ラインインクジェット
複合機



あらゆるプリントをエプソンのインクジェットで実現します

オフィス向けインクジェットプリンターの 戦略と取り組み

エプソンのインクジェットプリンター戦略と状況

◆エプソンのプリンター市場における成長戦略

- ✓ コンシューマー/SOHO向けに加え、大規模オフィス向けを大幅に強化する
- ✓ オフィス分野において、インクジェットプリンターでレーザープリンターを置き換える
- ✓ 幅広い商品群を提供することで、世界中の様々なお客様の要望に応える

◆商品ジャンル軸から見たエプソンの取り組み

- ✓ インクカートリッジモデルは、高いプリントボリュームにつながる中・高価格帯機種を強化
- ✓ 大容量インクタンクモデルは、商品ラインアップ強化と認知拡大活動により、成長を持続
- ✓ オフィス向けインクジェット複合機は、中長期的な成長ドライバーとして強化



インクカートリッジモデル



大容量インクタンクモデル

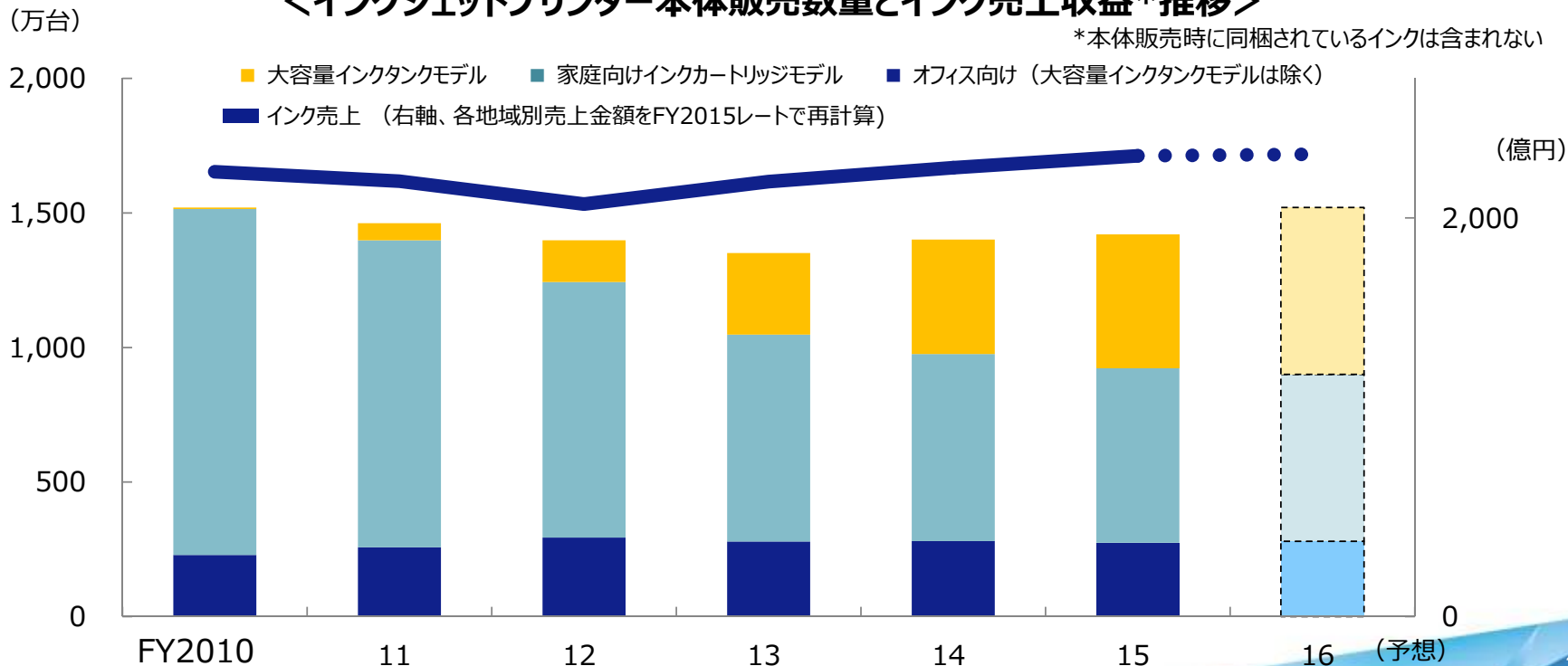


オフィス向けインクジェット複合機

インクジェットプリンター戦略の進捗

- ◆ インク売上は安定的に推移し、大容量インクタンクモデルが拡大するなど、戦略は着実に進展

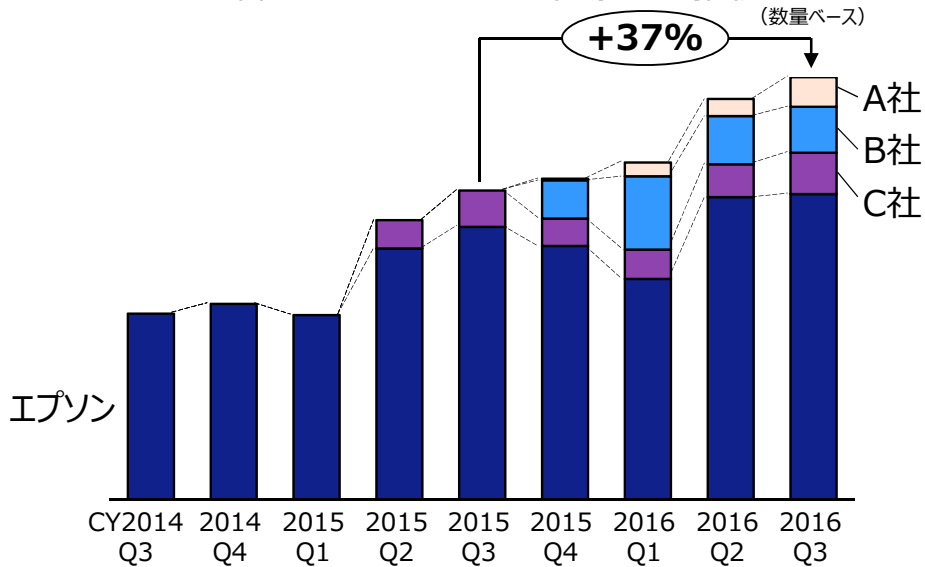
＜インクジェットプリンター本体販売数量とインク売上収益*推移＞



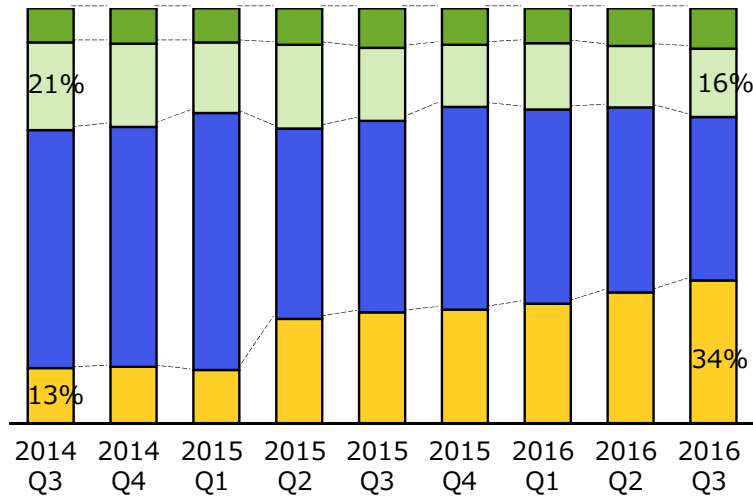
大容量インクタンクモデルの成長の継続

- ◆ 認知度向上によりさらに市場が拡大。また、レーザープリンターのローエンド市場からのシフトが始まっている

東南アジア圏*の
大容量インクタンクモデル市場サイズ推移
(数量ベース)



東南アジア圏*の
A4サイズプリンター市場動向
(数量ベース)



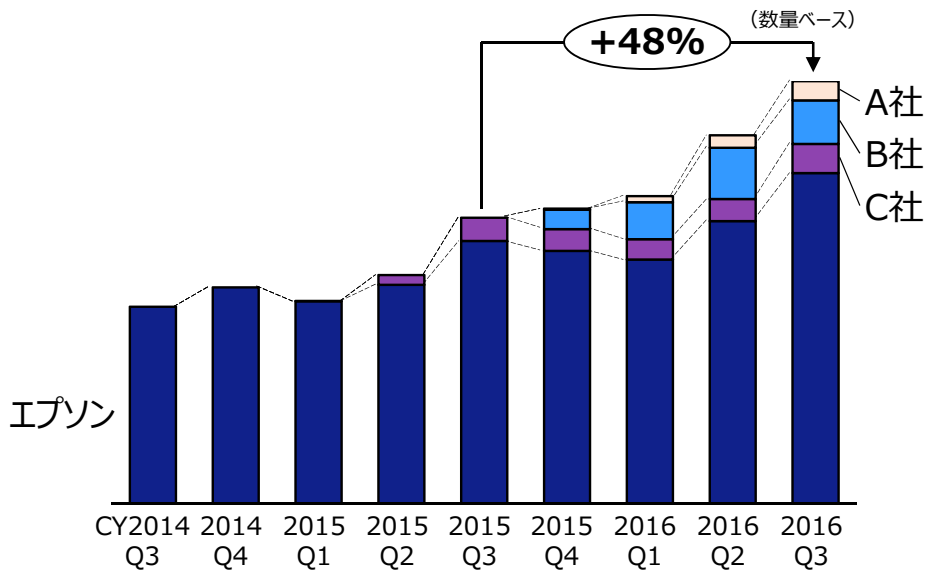
■ レーザープリンター 21-69ppm ■ インクカートリッジモデル
■ レーザープリンター 1-20ppm ■ 大容量インクタンクモデル

Source: IDC Worldwide Quarterly Hardcopy Peripherals Tracker 2016Q3
 * 東南アジア圏は、インドネシア、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポールほか（IDCの定義する「Asia/Pacific」のうち、Australia, Hong Kong, India, Korea, New Zealand, PRC, Taiwanを除いた地域）

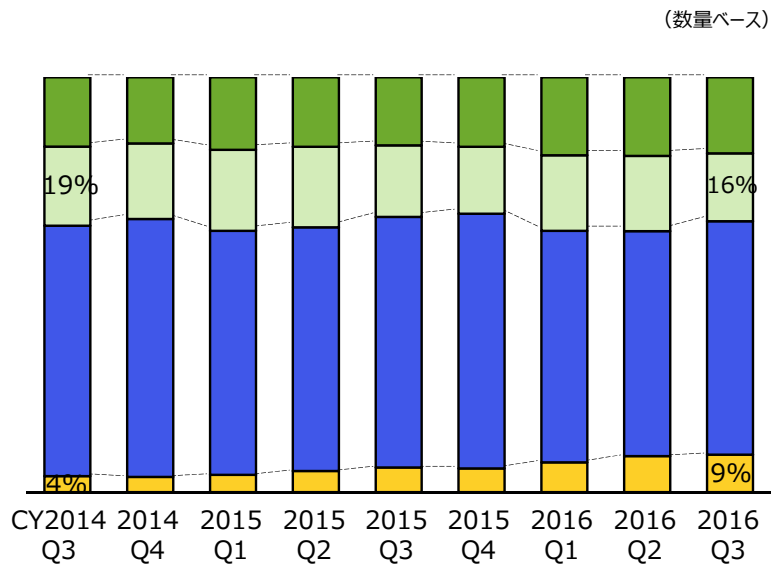
大容量インクタンクモデルの成長の継続

◆ ワールドワイドではさらなる拡大余地があるものと認識

ワールドワイドの
大容量インクタンクモデル市場サイズ推移



ワールドワイドの
A4サイズプリンター市場動向

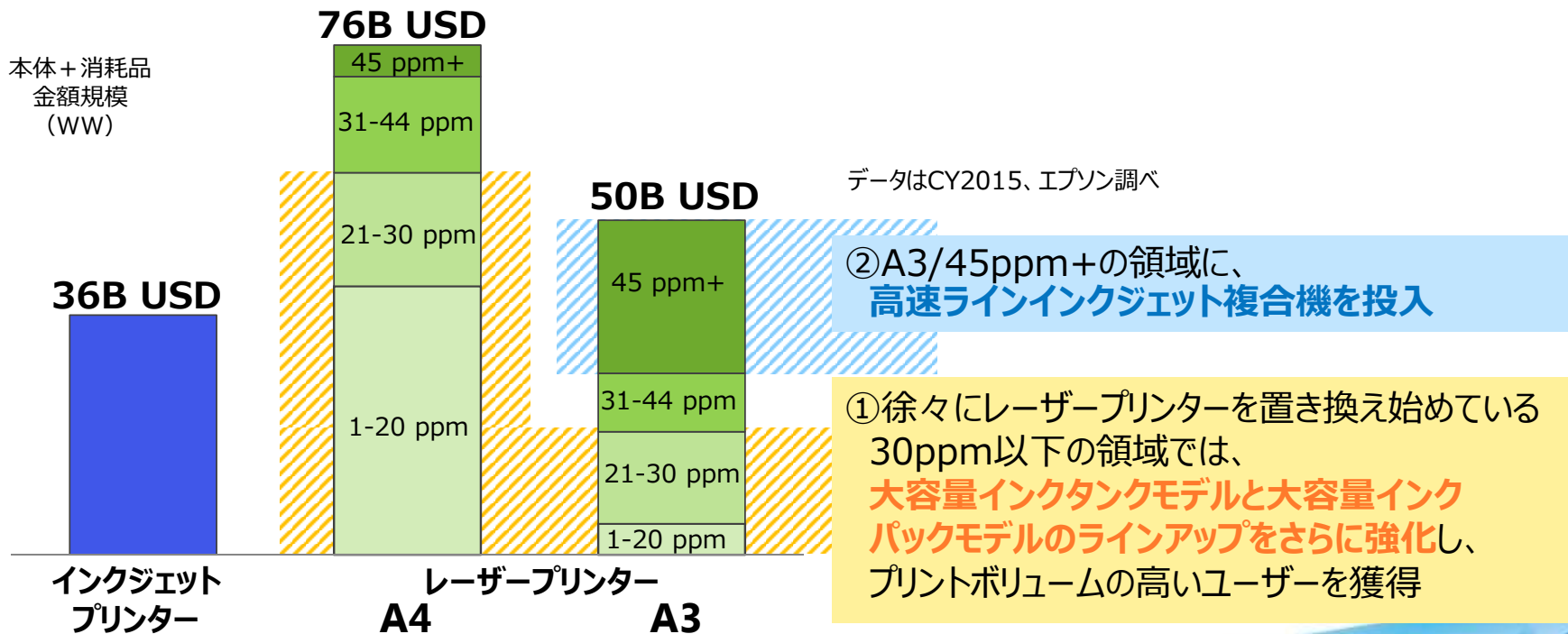


Source: IDC Worldwide Quarterly Hardcopy Peripherals Tracker 2016Q3

オフィス向けの成長戦略について

オフィス向けインクジェットプリンターの戦略

- ◆ 膨大な複写機・レーザープリンター市場をインクジェットプリンターで置き換えていく
- ◆ 革新的な高速ラインインクジェット複合機の投入など、商品力の強化を図るとともに次期中期経営計画における売上成長のための事業基盤を構築




オフィス向けインクジェットプリンター商品ラインアップ (国内)

EPSON
EXCEED YOUR VISION

* PrecisionCore搭載モデル

2017年2月2日時点 (本体価格はエプソンダイレクト (エプソン直販サイト) での参考販売価格)

	モバイル	A4モノクロSFP	A4カラー-SFP	エコタンク搭載モデル	
				A4モノクロSFP/MFP	A4カラー-MFP
					
型番	PX-S05W/B	PX-K150/S350*	PX-105/S740*/S840*/S860*	PX-S160T/M160T	EP-M570T/EW-M660FT*
本体価格帯	2万円台後半	7千円台～2万円台半ば	9千円台～5万円台後半	1万円台後半～2万円台後半	3万円台後半～5万円台半ば
印刷スピード(ipm) (Cカラー, Mモノクロ)	ACアダプター 使用時 C 4.0 M 7.0	M 15～20	C 4.7～24 M 9～24	M 15	C 5～7.3 M 10～13.7
耐久枚数 (ページ)	1.5万	5万～15万	8万～30万	5万	3万～5万
	A4カラー-MFP	A3カラー-SFP	A3カラー-MFP	インクジェット複合機	高速ラインインクジェット複合機
				 New	 New
型番	PX-M650F*/M740F*/M741F*/ /M840F*/M860F*	PX-1004/ PX-S5040*/S7050*	PX-M5040F*/M5041F*/ M7050F*	PX-S840X*/M840FX* PX-S7070X*/M7070FX*	LX-7000F*/10000F* シリーズ
本体価格帯	1万円台後半～7万円台後半	2万円台後半～5万円台後半	3万円台後半～20万円台前半	月額5千円～1万3千円	月額5万円～7万2千円 もしくは、本体価格200～260万円
印刷スピード(ipm) (Cカラー, Mモノクロ)	C 7.3～24 M 13～24	C 5.5～24 M 15～24	C 10～24 M 18～24	C/M 20～24	C/M 75～100枚/分 ※A4横片面
耐久枚数 (ページ)	5万～30万	1.8万～30万	8万～30万	15万～60万 ※一部機種では パーツメンテナンス等を実施	600万以上 ※パーツメンテナンス等を実施

オフィス向け新商品のご紹介

オフィス向けインクジェットプリンター 新商品

高速ラインインクジェット複合機
(大容量インカートリッジ)

A3インクジェット複合機/プリンター
(大容量インクパック搭載)



LX-7000Fシリーズ



LX-10000Fシリーズ



PX-S7070X



PX-M7070FX

スピード	75枚/分 (A4横片面)	100枚/分 (A4横片面)	24ipm
ターゲット市場	複写機/複合機 (45ppm以上)	高速複合機/軽印刷/高速プリンター (45ppm以上)	複写機/複合機 (30ppm以下)
ターゲットユーザー	一般企業・オフィス、印刷業・チラシ、帳票などの業務用途		一般企業・オフィス、店舗
販売プラン (国内)	お客様のニーズに応じて3つの販売プランを用意		月額定額サービス
発売時期 (国内)	2017年5月発売予定		2017年3月上旬サービス開始予定

- ◆ エプソンは、独創のPrecisionCoreラインヘッドにより、『想像を超える生産性』と『優れた環境性能』をお客様に提供



新商品の
特長

- ① 高速・高画質印刷
- ② 小型でシンプルな構造
- ③ 低消費電力

特長①：高速・高画質印刷

- ◆ 圧倒的な印刷スピードを、高画質で実現し、オフィスでのプリント環境を劇的に変えていく

導入前



印刷が遅い
印刷コストが気になる



導入後

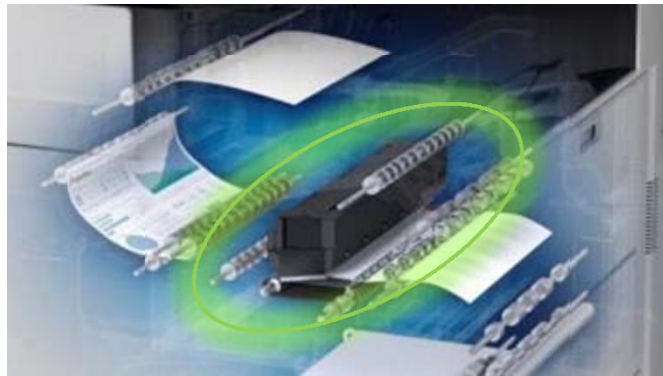


印刷が速いから待たない
低コストだからカラーで印刷
1台で2台分の働き



特長②：小型でシンプルな構造

- ◆ 圧倒的なスピードを実現しながら、オフィスに置けるコンパクトサイズ
- ◆ シンプルな構造だから、イージーメンテナンスを実現
- ◆ 容積効率が高いインクの特徴を生かした大容量インクカートリッジにより、カートリッジの交換頻度を低減



印刷のための構造
プリントヘッド+静電吸着ベルト

インクカートリッジ1セット(5本)装着時の
印刷可能枚数 (ISO基準)
モノクロ：100,000枚
カラー：50,000枚



特長②：小型でシンプルな構造

- ◆ 構造がシンプルのため、部品交換などのメンテナンスの頻度が少ない

〈月間印刷枚数2万枚×60ヶ月利用時に必要な交換部品〉

LX-10000F/LX-7000F

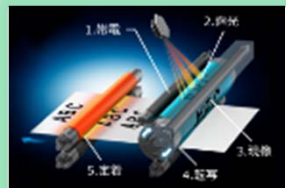


給紙ローラー

給紙ローラーのみ

*120万枚以上の場合は他の交換部品が発生します

レーザー方式の例



定着ユニット



一次転写ユニット



二次転写ユニット



現像ユニット



給紙ローラー

※機種により必要な部品・交換頻度は異なります

特長③：低消費電力

- ◆ 熱を使わないインクジェット技術だから、超低消費電力を実現



LX-10000F

カラー/モノクロ
100枚/分※

最大消費電力
320W

TEC値
1.2 kWh

カラー/モノクロ
75枚/分※

最大消費電力
300W

TEC値
0.9 kWh

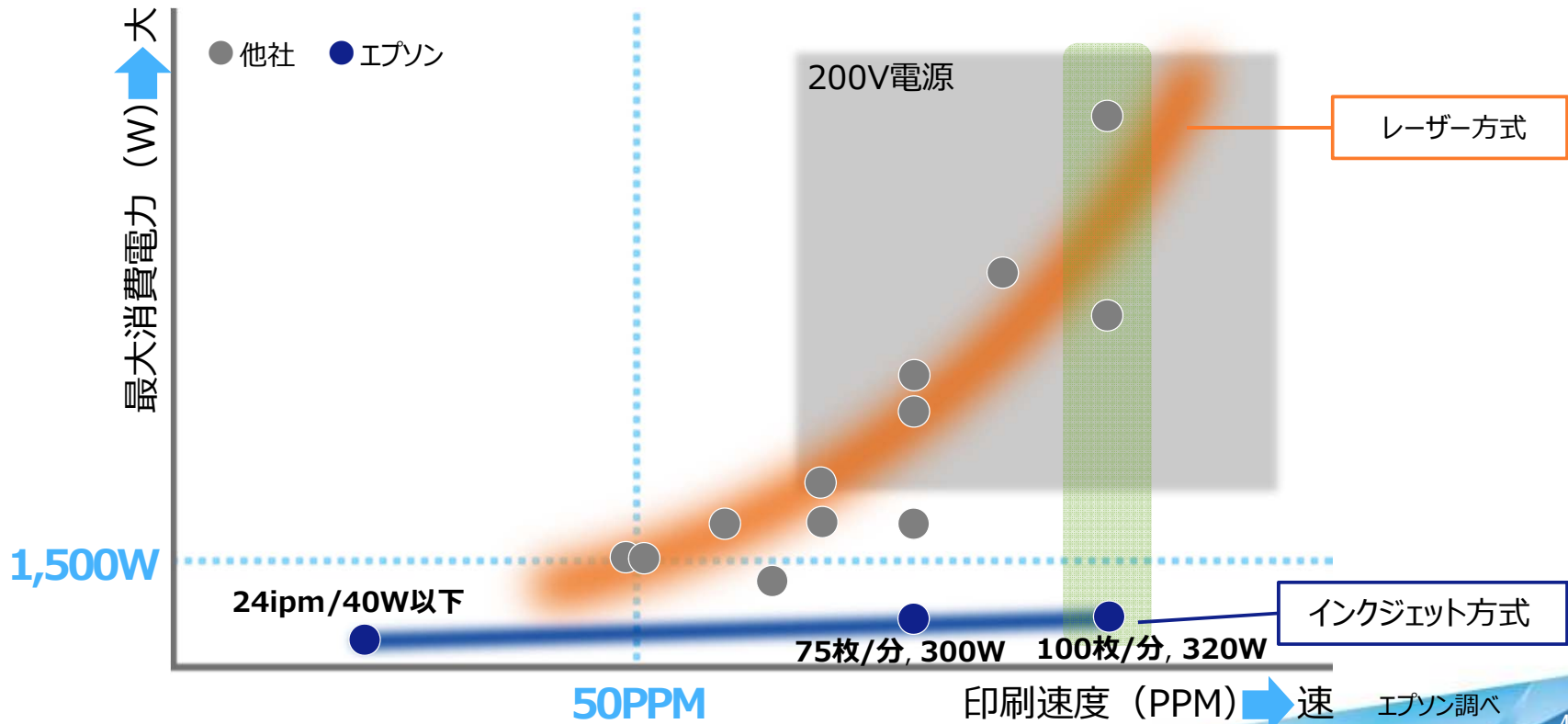


LX-7000F

※A4片面横送り時

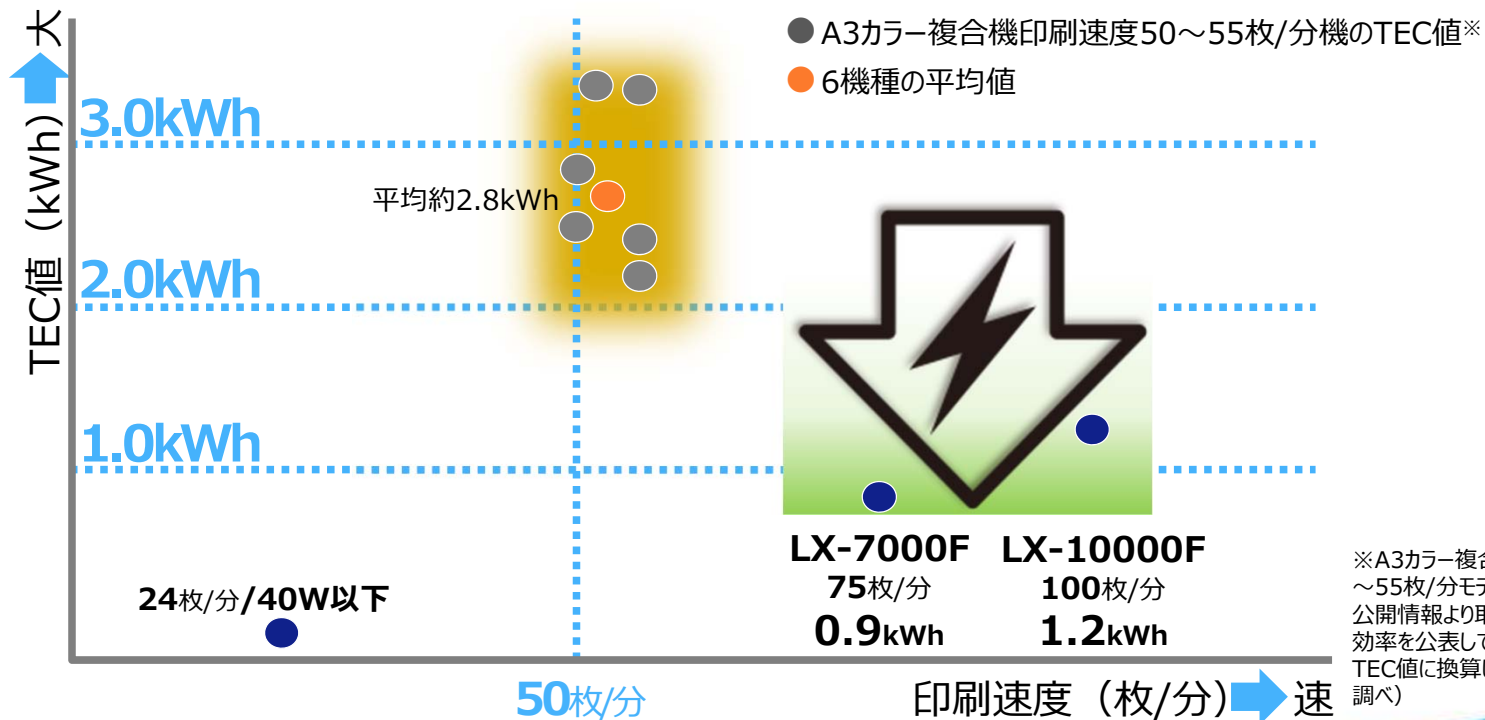
特長③：低消費電力（最大消費電力）

◆高速化するほど、消費電力に差が出る



特長③：低消費電力（TEC値）

◆ レーザー方式に対して、圧倒的な低消費電力



※A3カラー複合機6メーカーの50～55枚/分モデルのTEC値を各社公開情報より取得。エネルギー消費効率を公表している機種については、TEC値に換算してプロット（エプソン調べ）

高速ラインインクジェット複合機 オプション品

- ◆ オフィスでの大量印刷や、センタープリンターとしてのニーズに対応

大容量給排紙

オプション装着時
最大排紙
4,950枚

オプション装着時
最大給紙
6,050枚

フィニッシャー

(オプション)

- ステープル
- ソート
- 4,200枚排紙

大容量給紙ユニット

(オプション)

- 3,500枚給紙



お客様のニーズに応えた販売プランを展開 (国内販売プラン/ファクス付きモデル)

販売プラン	オール・イン・ワン		販売プラン	インク・スタンダード		カウンターチャージ	
	月額定額プラン			本体ご購入 インク、保守サービスは 都度ご購入・契約		本体ご購入、 またはリース契約、 印刷枚数に応じて課金	
特徴	✓ 小売業・SOHOなど、毎月、 安定的に印刷するお客様に 最適なプラン		特徴	✓ 自治体・学校などで 普及しているプラン		✓ オフィスなどで普及している 一般的なコピー契約形態 のプラン	
	LX-10000F	LX-7000F		LX-10000F	LX-7000F	LX-10000F	LX-7000F
基本 使用料金 5年契約時 (税別)	月額 72,000円	月額 52,000円	標準モデル 機器本体 (税別)	260万円	210万円	260万円	210万円
基本 印刷枚数 カラー/モノクロ	7,000枚 /13,000枚	3,000枚 /7,000枚	プリント コスト カラー/モノクロ (税別)	インク		インク+保守サービス	
チャージ料金 カラー/モノクロ (税別)	¥3.0/¥0.8	¥3.6/¥1.0		¥1.5/¥0.4	¥2.3/¥0.6	¥9.0/¥1.2	¥11.0/¥1.5

インクジェット複合機 新商品・サービス

- ◆ 既存のインクジェット複合機に対するお客様の声を反映し、生産性・操作性・メンテナンス性を改善・向上

従来インクジェット複合機

ご評価いただいた点

圧倒的な低プリントコスト
(特にカラーコスト)、月額
定額制、資産化不要、消
耗品管理不要

改善要望をいただいた点

メンテナンス性、PCLレスの自
動検針、FAX機能、操作
性/使い勝手など



「エプソンのスマートチャージ」
A3 複合機フルセットモデル



PX-M7070FX

プロジェクトによる改善・向上

新インクジェット複合機

新商品・サービスでの 主な改善点

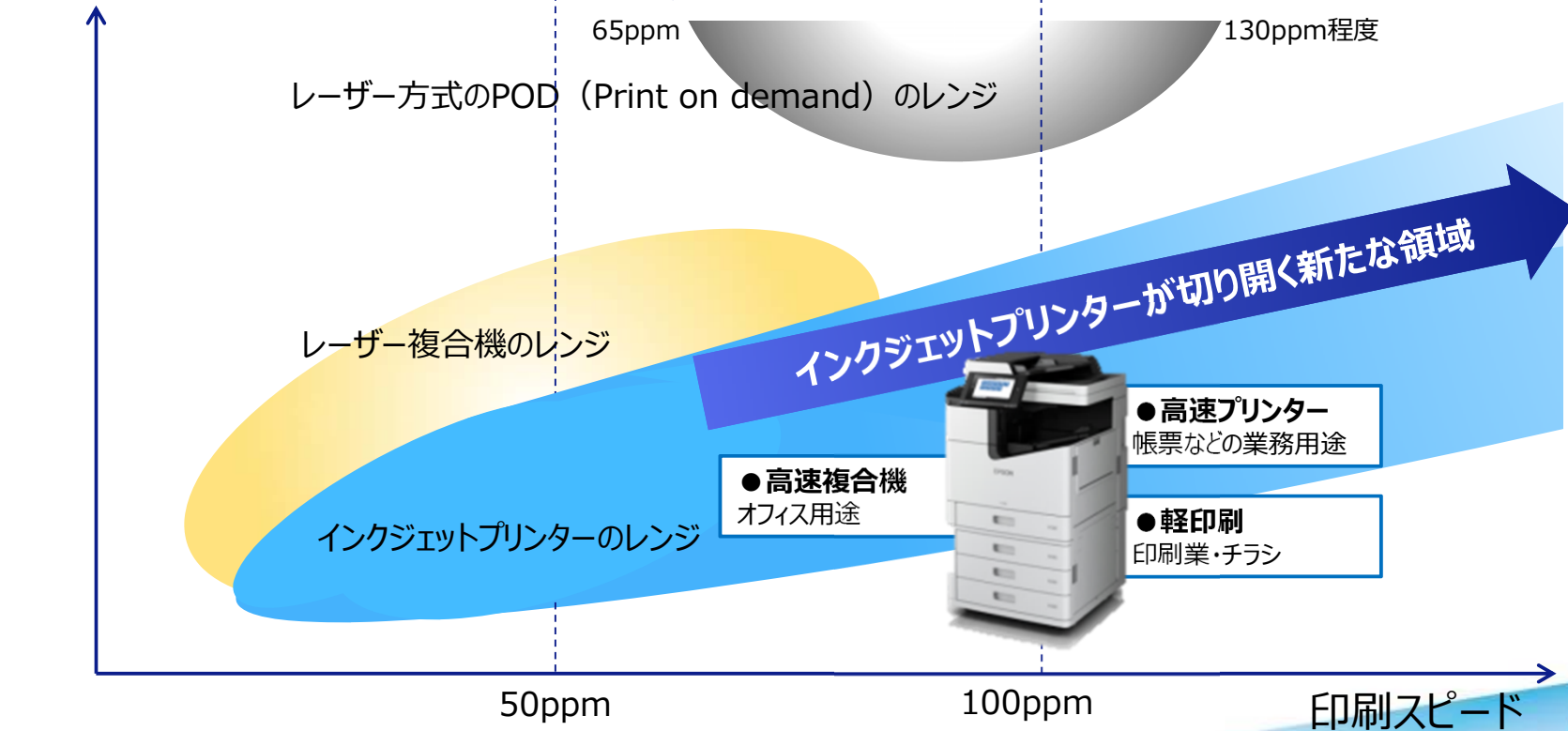
- 抜本的な機構変更によるメンテナンス性改善
- DSS機能内蔵化 (PCLレスの自動検針実現)
- FAX機能強化
- GUI・操作フローの改善など

※DSS : Device Status System (印刷情報遠隔検針システム)

さらに広がるインクジェットプリンターの可能性

スピードと価格のバランスで高パフォーマンスを実現し、 新たな領域を開拓

本体価格



オフィス向けの中長期的成長に向けた事業基盤構築

ものづくりの強化

◆ プラットフォーム化による効率的な商品開発

- メカエンジン
- コントローラー（SOC、ファームウェア 等）
- GUI 等

◆ 生産能力の拡大

- ヘッドの需要増、高密度化に向けた生産体制強化
 - ✓ 広丘事業所 新工場の建設など
- 中期的な数量拡大に向けた完成品組立拠点の拡張
 - ✓ インドネシア工場とフィリピン工場の増強
- 自社製ロボット導入などによる効率化

プラットフォーム活用例

ユーザーインターフェース画面構成統一
EP-879A 2.7"
PX-M7070FX 5.0"



広丘事業所 新工場 (2018年度稼働予定)



インドネシアエプソン 新工場 (2016年度より稼働)



複写機・複合機市場で求められるソリューションの提供

◆ プリンターフリートマネジメント対応

➤ ユーザー管理機能の強化

- ✓ ユーザー管理、印刷セキュリティ、印刷コスト管理、機能制限等の機能を強化した、複合機を管理・制御するサーバーソフトウェアを提供

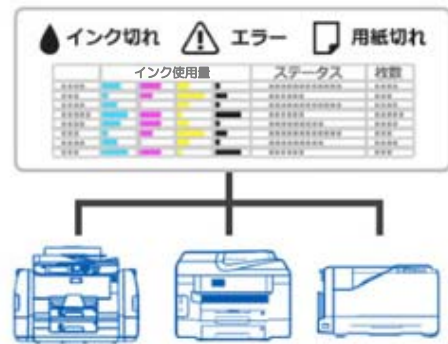
➤ デバイス管理機能の強化

- ✓ 複合機、プリンター、スキャナーなどの設定、クライアントPCの設定、機器の状態や使用状況について、IT管理者が最大で2,000台を一元管理できるソフトウェアを提供

➤ 世界各地のISVとの連携強化

- ✓ 標準的なソリューションとの接続性確保

※ISV : Independent Software Vender



※イメージ画像

販売・サポートの強化

- ◆ 世界各地の販売拠点における体制強化
 - 販売と技術サポート人員の継続的強化
 - ITインフラ、情報支援ツールの強化
- ◆ 販売網の強化
 - 高速複合機販売のための販売網の抜本的強化
 - ✓ 複写機系販売店とのパートナーシップ構築
 - ✓ 既存パートナー（OA系・システムインテグレーター等）での高速機取扱い拡大
- ◆ 認知度拡大・ユーザープル活動
 - 実機デモ（各種トレードショー、内覧会）
 - インクジェット技術優位性の訴求
 - 潜在的なお客様へのダイレクトアプローチ（クロスセル活動強化）
 - ブランドキャンペーン（ビジネスブランド訴求）



業績目標

プリンター事業の目標

◆ 業績目標

		2015年度実績	2016年度予想	2018年度目標
売上収益		5,189億円	4,830億円	2015年度からの 年平均成長率 +3.5%程度 (同一為替前提)
為替レート	USD	120.14円	107.00円	
	EUR	132.58円	117.00円	

◆ 主要指標

		2015年度実績	2016年度予想	2018年度目標
IJP本体	数量	約1,420万台	2015年度に対し 約7%増	2015年度に対し 約20%増
	構成比 ・オフィス向け インクカートリッジモデル ・大容量インクモデル*	約20%	約20%	約20%
		約35%	約40%	約45%
IJPインク	売上収益	+1桁%台半ば (日本円換算後)	-1桁%台後半 (日本円換算後)	安定的に推移 (同一為替前提)

* 大容量インクモデル：大容量インクタンクモデル、大容量インクパックモデル、高速ラインインクジェット複合機

エプソンは、インクジェットを核とした独創・先進の技術と
 卓越した垂直統合オペレーションにより、世界のあらゆる地域のお客様に、
 文書と画像による快適なコミュニケーションと効率的な業務遂行を支援する
 商品・サービスを提供します



EPSON
EXCEED YOUR VISION